

南アフリカ

エイズや格差とともに暮らす人々が自信を持てるように



この村の HIV 陽性者を孤立させないために、どんなサポートが必要だろう？

村の女性たち。「私たちが、この村を支えていくんだ」



自分の服薬しているクスリの名前、副作用などを正しく知ることはとても大切

活動の 背景

アパルトヘイトの終焉から20年経った現在も黒人社会の非就業率は約60%にも上り、貧富の格差は広がり続けています。さらに人口の約12%がHIV(エイズウイルス)に感染し、毎日800人を超える人がエイズで亡くなっています。一方で、以前は死に至る病気だったHIV/エイズは、2004年に開始された公的医療機関でのエイズ治療薬(ARV)無料支給が定着してきたことで、感染していても長年生きることのできる病となり、求められるケアや対策も変化しつつあります。

HIV/エイズとともに生きる人々を支える

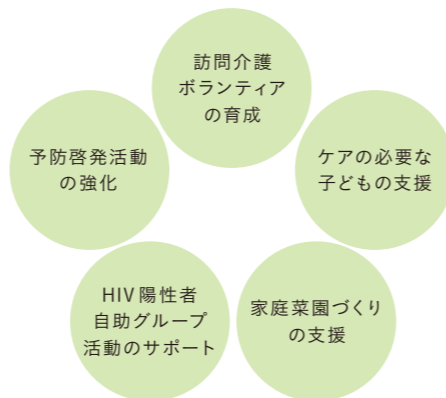
住民参加型 HIV/エイズ予防及び陽性者支援プロジェクト(リンボポ州ベンベ郡)

2012年度後半から3年間の予定で、リンボポ州ベンベ郡において現地NGO「LMCC」と協働し「住民参加型HIV/エイズ予防啓発活動及びHIV陽性者支援強化事業」を開始しました。2014年度からは同じ地域の別の村で訪問介護の活動を行う「チルンザナニ」と新たに協働を開始しました。訪問介護ボランティアの育成、予防啓発活動の強化、HIV陽性者自助グループ活動のサポート、ケアの必要な子どもの支援、家庭菜園づくりの5つの活動を中心に行っています。

2014年度報告

■訪問介護ボランティアの研修 訪問介護ボランティアは、HIV陽性者の治療の相談に乗るなど、地域の中で孤立しがちなHIV陽性者を支えています。新パートナー団体チルンザナニが活動するフィアボム村で約25人のボランティアおよび同地域でチルンザナニと連携しながら他分野で活動する団体(障害者や高齢者対象など)のメンバーが、救急法やエイズ治療について学びました。その結果、ボランティアたちが実

JVCと現地NGOと住民ボランティア
で取り組む5つの柱



↓
地域住民が
HIV陽性者を支え感染を予防する

践的な知識を身に付けたことが確認されています。

副作用の強いエイズ治療薬を飲むには十分な食事を摂ることが必須ですが、自宅に食べ物がなく命を落とすHIV陽性者もいます。そこでJVCは家庭菜園での野菜づくりの方法を伝えています。LMCCの活動地域では、村内で家庭菜園の実践を広げていく人材として初年度から育成してきた「ファシリテーター」6人が、村の住民約50人に対して研修を行い、実践者が広がり始めました。研修参加者からは「野菜を買わなくなり家計が助かる」など継続的に食料を得られている様子が報告されています。また、これまで研修を受けたことがない村の子どもケアボランティアが共同菜園づくりを開始、子どものためのイベントで出される食事などに野菜が活用されるようになりました。チルンザナニの活動地域では訪問介護ボランティアやHIV陽性者を含む約70人が新たに研修を受けました。

■子どもケアボランティアの研修 前年度に引き続き地域の3村で子どもケアボランティア約20人を対象に、カウンセリングや児童虐待など子どもの問題解決のための研修を実施しました。活動2年目に入り、研修の学びがケアセンターの日常的な活動に活かされ始め、子どもからの信頼につながっています。その結果、体調を崩したり、学校に来ない子どもについて他の子どもたちがボランティアに相談し、新たなHIV感染ケースや家庭で問題を抱える子どもの発見、ケア、問題解決にいたったケースが報告され始めています。

■HIV予防啓発活動の強化 LMCCの活動地で3村の子どもケアボランティアが企画し、クリニックと共同で「HIV検査」や「子どもとHIV」についての啓発キャンペーンを行いました。看護師にHIV検査キットとともに参加してもらい、検査を呼びかけた結果、各村20~30人ずつの検査につながりました。

■HIV陽性者自助グループ活動のサポート 自助グループメンバーからの希望で11人を対象に家庭菜園研修を実施しました。その後、研修参加者は水が少なく厳しい地域でも継続的に菜園を作っています。また、自助グループのメンバーによる予防啓発キャンペーンの計画を開始しました。

2015年度計画

訪問介護ボランティアが、研修での学びを活かして患者へのケアの質を向上させられるよう日常的なモニタリングに注力します。子どもケアボランティアについては、日常的な活動内容の改善・向上のための研修を行い、地域住民と協力しながらの子どもサポート体制を強化していきます。またHIV陽性者を対象としたケアに関する研修等を実施していきます。家庭菜園研修においては、これまでの研修生から他の住民に広げていき、実践の定着を目指します。

研修参加者の声

「男性がもっとHIVに関心を持たないとね」



ファンニエル・マルレケさん(右)

男性がHIV検査を受けないことで家族に感染が広がっていきます。知り合いにも、自分が陽性なのではと薄々感じながらも検査を受けず、そのことを妻に伝えられていない人がいます。男性がきちんと検査を受けることで感染の拡大が防げるはずですが。今後は、男性を対象にした啓発キャンペーンをやりたいと考えてようになりました。



救急法について学ぶ訪問介護ボランティア



家庭菜園研修。村人から村人に実践が広がっている



家庭菜園を始めた子どもケアボランティア。採れた野菜は子どものためのイベントで活用



学校でのHIV予防啓発活動も開始した

